

水産資源増養殖実証試験・研究事業／概要報告（エゾバフンウニ）

株式会社 アルパ（令和4年3月9日作成）

- ・ 事業名称 エゾバフンウニの陸上養殖実証試験
- ・ 実施期間 平成31年4月1日～令和4年3月31日
- ・ 目的内容
 1. 稚内の沿岸漁業において、付加価値の高いエゾバフンウニの資源減少が続いている。特に温暖化による海水温度の上昇や海草の減少など、ウニの育つ環境が著しく悪化している。
 2. そこで、エゾバフンウニの安定した資源確保を目指し、沿岸漁業従事者が自ら行える小規模陸上養殖の実証試験・研究を行う。
 3. 「育てる漁業」を推進すると共に、地場産のエゾバフンウニの資源増大を図る。

・ 実証設備



・ 結果報告

1. 飼育と成長（平成31年4月～令和4年3月）

飼育年数	個数		単重（g）		直径（cm）	
	生存数	生存率	平均	小～大	平均	小～大
飼育開始	500	—	1.4	0.5-2.5	1.5	0.5-2.5
1年後	100	20%	21.3	15.5-25.0	3.5	3.0-4.0
2年後	70	14 (70%)	52.0	30.0-60.5	5.5	5.0-6.0
3年後	50	10 (71%)	67.1	54.5-81.5	6.5	6.0-7.0

※1 飼育開始時のウニは、ふ化1年後の稚ウニ。（利尻町ウニ種苗生産センターより入手）

したがって、表中の飼育年数は幼生からかご飼育の1年間を除いた年数。

2 1年後の生存数は弱体な稚ウニを除外した数で、利尻町の海水に比べて稚内北船溜漁港内の海水によどみがあり、さらに換水頻度の違いにより弱体化し、大量死発生。

3 生存率の（ ）内は前年比率。

4 漁獲可能な直径5cm。

2. 飼育年数と身入り

飼育年数	直 径 (c m)	殻付重量 (g)	身の重量 (g)	身／殻付 (%)
1 年後	4.0	25.0	7.0	28
2 年後	6.0	60.5	13.5	22
3 年後	6.5	70.0	16.0	23

< 1 年後 > 殻付き



たち割り



むき身



< 2 年後 > 殻付き



たち割り



むき身



< 3 年後 > 殻付き



たち割り



むき身



・ 結論

- ① 2～3年飼育で5cm（漁獲可能な寸法）以上と育ちが良く、身入りも良好で、色合いも良く、甘みがあって旨みも濃厚である。
- ② 換水頻度を高めることで、生存率を高めることができる。
- ③ 多少でもウニ漁の経験が沿岸漁業従事者であれば、容易に事業化できる。
- ④ 漁業従事者は、ウニの餌である昆布または海草を入手できる強みがある。
- ⑤ プレハブ1～2棟の規模で海水の冷暖房装置と換水装置を備えた設備があれば、数百万円程度の設備投資である。（国や道の助成金を活用）
- ⑥ 温暖化による海水温度の上昇、磯焼け、赤潮発生などにより、天然物が枯渇している。エゾバフンウニの市場が高値であり、陸上養殖のコストは回収できる。
- ⑦ 稚ウニのふ化はナマコのふ化よりも簡単で、ナマコのふ化装置があれば可能。